2020年度大学入学者選抜「大学入試センター試験」壮行会校長激励挨拶

２０２０年１月１７日（金）４限目放送室

３年生の皆さん、こんにちは。

大学入試センター試験を目前にした皆さんに、大学受験にまつわる二つ問いを投げかけた上で、私なりの解釈をお話し、最後にセンターに出陣する君たちに「激励の言葉」を送りたいと思います。

一つ目の問いは、「大学入試は一発勝負か」ということです。

　国公立大学の一般選抜は、大学入試センター試験大学と個別試験の合計点で合否が決まります。

「二発勝負」という言葉はありませんが、試験日が本番という意味で捉えると、本番は２回ということになると思います。

その２回の本番で、最大のパフォーマンスを発揮するために、君たちは、長い時間と労力をかけて、赤本で過去問を解いたり、センター対策の演習を重ねたりといった、懸命の努力を続けて、今日の日を迎えています。

　私が一つ目の問いに「大学入試は一発勝負か」という問いを立てたのは、それとは違う理由からです。

　それは、国公立大学の一般入試は、センター試験という本番と、個別試験という本番の間が大きく開いていて、その間に、普通の高校生活が挟み込まれるという、特殊な構造の入試だということです。

しかも、国公立の出願、人によっては私立の受験が、本番と本番の間にスケジューリングされます。

そう考えると「大学入試は一発勝負」とは言えないという気もします。

　合格を勝ち取るためには、１月から３月まで、心と頭を悩ます様々な情報や刺激に影響されることなく、メンタルとモチベーションを維持して勉強を続けることが求められます。

　正念場が長く続きます。何よりも、心の強さが、合格をたぐり寄せる秘訣になります。

自己採点をして、出願大学を決めて、前期特講に参加する、そうした高校生活も含めて本番です。

自分を信じて、学校を信じて、強い心で、本番と本番の間の高校生活を送ることを、予め心に決めておきましょう。

　二つ目の問いは「受験は団体戦か」ということです。

　私は、違うと思います。「受験は個人戦」の要素が強い。

持っている学力や性格・資質が違い、受験に臨むにあたっての家庭の状況も違う。併願作戦、私大受験といった戦略も違う。

皆さんは、これまで、一人ひとり異なる志望動機を持ち、大学でこんな学問をするのだという将来像を胸に秘めて、刻苦勉励の毎日を過ごしてきました。

友達がこうだからというのではなく、塾や親にこう言われたからというのではなく、あくまで、君たち一人ひとりが、脚本を書き、演出を考えた「合格ストーリー」に沿って、受験を完結させてください。

試験本番は、自分一人がたよりです。誰も解法を教えてくれません。

ケアレスミスを指摘してくれる人もいません。

　時間の許す限り、最後の最後まで、持っている実力を１００パーセント発揮することだけを考えて、問題・解答用紙に向かいましょう。

自己採点、出願は、特に大切です。

月曜日は元気に登校して、自己採点に臨みましょう。

　安易に流れることなく、自分勝手に陥ることなく、家族とよく相談して、出願しましょう。

　いったん出願したら、後期試験までちゃんと受験しましょう。

清々しい心境で、卒業式に参加しましょう。

　話をひっくり返すようですが、私は、「受験勉強は団体戦だ」と思っています。

教室の中を見まわしてください。

進路先が確定した友達も、センター試験を受験します。

一緒に過去問に取り組んだり、わからないところを教え合ったりした友達がいます。

みんなのことを必死で考え、サポートしてくれる担任の先生がいます。

職員室には、前期特講のために既に教材を準備してくれている各教科の先生方がいます。

面接、小論文の個別指導をしてくれる先生もいます。

　受験勉強は団体戦です。友達と助け合い、励まし合って、「チーム何組」、「チーム高志」の強みを、最大限、発揮するようにしましょう。

　最後に「センター試験激励のことば」を送って終わりにします。

　生徒諸君よ。君たちは何のために大学に行くのか。

　自分のためにだけではないだろう。

　様々な困難を抱える日本や世界のどこかで困っている人を助けるため、大学で学問やスキルを身につけるためのはずだ。

　残念ながら、世の中には多くの理不尽や不合理がまかり通っている。

それを解決できるのはＡＩやコンピュータのはずがない。

　人の痛みに共感し、困った人を笑顔に変える解決策を見つけ出せるのは、我々の世代ではなく、頭の柔らかい君たち若者世代だ。

世界は君たちの登場を心待ちにしている。

君たちは「ああ　いでゆきて　つゆ乱れなき　世をば　開かん」と、何回も、何回も、校歌で歌ったではないか。

大学入試センター試験は、これからの日本、世界を変える君たちが、人生の目的、当面の目標を追求するための、最初の関門だ。

大学受験が高校生を人間的に成長させるという話が、本当であることを証明しよう。

恐れず、ひるまず、勇気をもって、問題用紙に向かおう。

いつもどおりの姿勢でペンを動かし、焦らず、慌てず、冷静に、今持っている実力を１００％発揮できるように、問題を解こう。

ケアレスミスで後悔することがないよう、最後の最後まで時間を有効に使おう。

高志高校３年生諸君の健闘を祈り、私からの激励の言葉とします。

　手先や足先が冷えないよう防寒対策をして会場に向かいましょう。

結果のいかんにかかわらず、月曜日は、元気に登校しましょう。

終わります。